

当事者 部会

部会長 成竹 精一 副部会長 長岡 純人 川崎 昭仁

運営委員会担当者 綿貫 好子 池田 純 宮尾千恵子

ケアマネ連絡会担当者 小林 千香 小山 多恵子

長野市障害福祉課担当者 小池広得 荒井 和 坂口 真

1 年間テーマ

2 部会等の開催状況

日時		会場	人数 (人)	部会のテーマ	主な内容
月	日				
4		WEB 会議	8	執行部 年間計画について	
5	21	WEB 会議	5	執行部 今年度の実施内容について	
6	18	障害者センター	17	年間計画 防災対策について	能登半島地震ボランティア体験談を聞く
7	23	WEB 会議	6	次回の内容、今後の動きについて	移送について ふくしネットフェスタ
8	20	障害者センター	16	・移送について ・ふくしネットフェスタ	・出前講座(交通政策課) 「長野市の公共交通再編計画について」 ・当事者部会展示について
9	10	WEB 会議	5	・ふくしネットフェスタについて 内容検討 ・12月の部会内容について	・当事者団体活動の掲示 ・「ほっこり話」の掲示 ・高齢化について、マイナンバーカード
10	15	WEB 会議	7	・ふくしネットフェスタについて	・ほっこり話内容確認 ・当事者団体掲示の確認
11	6	長野市芸術館		ふくしネットフェスタ参加	
11	19	WEB 会議	5	・ふくしネットフェスタ振り返り ・次回の内容確認	・ほっこり話の掲示が良かった
12	10	障害者センター	15	「重層的支援体制整備事業」 「マイナンバーカードの基礎知識」	・福祉政策課 長野市社協 ・マイナンバー課
1	7	WEB 会議	6	本年度のまとめ	・当事者部会のあり方
2	18	障害者センター	12	1年間のまとめ 来年度に向けて	・執行部について ・どのようなテーマでやっていくか

3 機関紙、冊子、アンケート調査・行事など報告書

令和6年度 事業報告

4 課題について

(1)主な検討課題

- ・長野市障害者基本計画、障害者差別解消法施行後の動向について
- ・長野県「障がい者共生社会づくり条例」の動向について
- ・障害の理解・啓発、他障害の理解。そのための情報共有(特にほっこり事例)
- ・障害当事者の防災対策
- ・ふくしネットフェスタへの積極的参加と当事者部会の周知と参加呼びかけ
- ・当事者同士の理解と交流をはかるための交流会開催

(2)検討の目的と結果(現状)

- ・本年度計画したテーマについて、すべて予定通り開催することができた。また、出前講座などで外部の方に来ていただき、直接の生の声をお聞きできたこともよかった。
- ・身近で多岐にわたる問題に対して学習、意見交換ができた。特に、マイナンバーカードの申請についてや、くるるカードがSuicaと合体するうえで障害者割引を使える申請の仕方などに関して、それぞれの会員が持っている情報も交換できて充実した会となった。
- ・移送の問題、防災対策、高齢化問題に関しては、問題自体が大きく、障がい当事者の問題ばかりではなく全市民の問題でもある。そこでまず行政がどのような対策をしているのかを学習することが大切と考え、まずそれを理解することに努めた。そこから、具体的に災難や不利益が無いようにしていくにはどうするか。解決にむけて具体的な提言ができるように、これからも検討を続けていく事が必要だと感じている。
- ・ふくしネットフェスタに関しては、本年度も「ほっこり話」の発表をメインに取り組み、おおむね好評であった。より多くの当事者の声が集められるようにしていきたい。
- ・当事者同士の理解と交流をはかるための取り組みに関しては、本年度もほとんどできなかったことは残念であった。

(3)引き続き検討が必要とされる課題

- ・移送の問題、防災対策、高齢化問題に関しては、引き続きテーマとして取り上げ、より深い議論をしていく事が必要かと感じる。
- ・制定をめざしていた長野市手話言語条例が制定の運びとなり、新年度にて早々にテーマに取り上げさせていただき学習する機会を設けていきたい。
- ・コロナ禍以来途絶えていた、当事者が気楽に参加して意見交換ができる訪問お茶会のような形も復活させていき、より多くの当事者の方々の生活を知り、意見・要望などを把握していきたい。
- ・ここ数年、人権や差別に関してのテーマを設定していなかった。来年度はテーマとして取り上げて、学習し意見交換をしていく場を設けたい。

令和6年度 事業報告

(4)部会の運営体制について

・基本的には、ここ数年取り組んできた型式を続けていければよいと感じる。ただ、昼間の会議には参加が難しい会員がいるのも事実である。夜の時間帯に当事者部会を開催することも検討していきたい。また、可能であれば、対面と Web 会議を併用するハイブリット型の会議も開催してみたい。

5 総括(1 年間を振り返って)

・本年度、1年間を通じて精神障害の当事者の方の参加がなくご意見をうかがえず、大変さみしく感じた。何とか様々な形で参加をしていただけるよう、お声がけをしていきたい。

・より開かれた部会を目指しているのだが、どうしてもメンバーの固定化傾向を解消できない。固定化が必ずしも悪いことではないが、より多くの当事者の方々の生活の現状や、思いを把握することも大切である。それをベースにして当事者部会の活動を考えていきたいので、何とか参加しやすい部会を目指して取り組んでいきたい。

令和6年度 事業報告